



希望の鐘 2022

やる気・思いやり・根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長室からこんにちは～ 教育の大切さを胸に 令和5年年頭の決意



新年あけましておめでとうございます。

年の初め、各ご家庭におかれましては、いかがお過ごしだったでしょうか。家族親戚など、何かと人が集まるこの時期は、コロナ禍の時代においては、大変貴重な時間であることは間違いありません。しかしながら、感染症についてはまだまだ予断を許さない状況であり、こうした時間をもてないご家庭もあったのではないかと思います。

これからも健康にご留意いただき、新しい年をよい年にさせていただきますようお願いいたします。

さて、公益財団法人日本漢字能力検定協会が毎年発表する今年の漢字、令和4年（2022年）の字は「戦」という字であったことはすでにご存じかと思えます。ロシアのウクライナへの侵攻に始まった昨年を表す一文字であるといえます。また、日常生活における長きにわたるコロナウィルスとの戦いもそうですし、冬季オリンピックやサッカーワールドカップの日本代表選手の活躍も戦いと言えるでしょう。まさに「戦」の一年でした。スポーツで一つになる戦いは結構ですが、人の命が奪われ人権が踏みにじられるそんな戦いは一刻も早く終結して欲しいものです。令和5年（2023年）が平和で明るい話題の絶えない、そんな年になることを願っています。

新しく甲賀市の教育委員に着任された池田さんが、着任のあいさつの中で、平和について次のようなお話をされました。

「先日、世界50か国からの若者と日本の若者が4日間、『世界の平和に向けて大切なものは何か』について話し合いをする機会を開催しました。経済規模や文化などが異なる様々な国の若者50人と日本の若者50人が集まったの話し合いですから、きっと私の知らない解決策が出てくるだろうと期待していました。しかし、出てきた策は誰もが知っている言葉『教育』だったので。」

私たち教職員は、未来を担う子どもたちに対し日々教育活動を行っています。その営みが世界平和につながると世界中の若者が考えている、委員のその話を聞いた時、私も教育に携わる者の一人として誇りに感じました。同時に大きな責任を感じました。私たち希望ヶ丘小学校教職員は、目の前の子どもたちをしっかりと教え育てているのだろうか。

2学期の終業式で私は子どもたちに「一年の計は元旦にあり」の話をしました。そこで、私自身も池田教育委員の話を踏まえ、一年の計を立てました。

- 希望ヶ丘小教職員は、
- 子どもたちと共に学び、最善の支援を行う。
 - 子どもたちの学びを最後まで見届ける。
 - 教職員が自ら学び、成長する。

この三本柱を決意として、改めて学校運営を行っていきたく思います。

学校が担う教育活動だけが全てではありません。引き続き、保護者のみなさまや地域の方々のご協力ご支援を賜りますようお願いいたします。最後になりましたが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。